

1 研究主題

自ら学び、学び合う子どもの育成

～国語科「書くこと」の指導事項をもとに、「書きたい」思いを膨らませて～

2 主題設定の理由

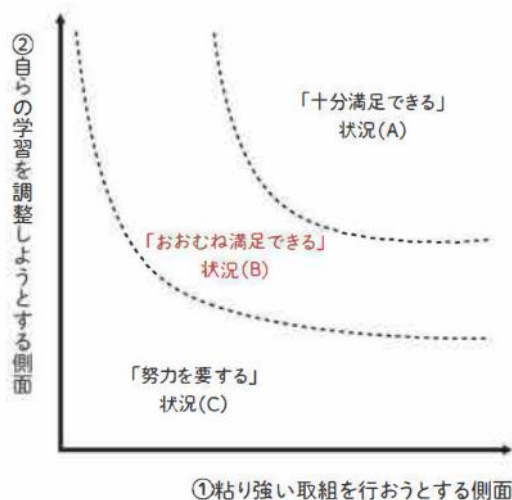
本校は、「自助・友愛」を校訓とし、教育目標に「深く学び、心豊かに、たくましく生きる子どもの育成」を掲げている。具体的なめざす子ども像として「自分から進んでやろうとする子」、「よく考えて行動する子」、「運動に続けて取り組む子」、「よさを認め、助け合う子」、「美しい環境をつくる子」と示している。

本校の子どもたちは、素直で明るく、他を思いやるやさしい心をもっている。また、課題に対して真面目に努力するよさをもっている。したがって、活動への興味・関心が高まると夢中になって活動に取り組むことができる。しかし、自ら取り組むことが難しく、指示を受けてから活動に取り組む場面が多い。また、うまくいかないことがあると早くにあきらめてしまうという姿も見られる。つまり、「主体的な学習に取り組む態度」の評価のイメージ(右図)から考えると、2つの側面(①粘り強い取組を行おうとする側面②自らの学習を調整しようとする側面)から評価した際、「十分満足できる」状況(A)なる児童が大変少ないことが、本校の大きな課題として捉えている。

このような子どもたちの実態から、「自ら学び、学び合う子ども」の育成を目指し、令和4年度からは「読み解く力の視点」を取り入れながら校内研究に取り組んできた。

令和4年度は、子どもたちが主体的に学びに向かい、友達と学び合うことができるには、「やってみたい」と思う魅力的なゴール(目的意識)が大切だと考え、「単元のゴールを明確にした授業づくり」を意識して取り組んできた。成果物を見せたり、誰に伝えるかははっきりさせたりするなど、子どもたちの「やってみたい」を引き出すには目的意識が大切であることを学ぶことができた。

令和5年度は、「自ら学び、学び合う」ためには、まず自分の考えや思いを相手に伝えることが大切であると考え、「自分の思いや考えを伝え合うこと」を意識した授業づくりに取り組んできた。実際の行事への取組を題材とすることで、子どもたちの話し合い



が活発に行われたり、気持ちを考える場面で、根拠となる部分の交流を行い、同じ意見でも、考え方が違うことに気がついたりするなど、交流場面で、自分の思いや考えを伝えることを意識した授業を通し、目的意識をもつことや、自分が話をするだけでなく、相手の話を聴く力が大切であると学ぶことができた。

令和6年度は、「児童が自分なりに解決し、知識を再構築する姿＝再構築している姿に着目し研究を進め、令和4年度から、進めてきた「読み解く力の視点」を取り入れた校内研究を3年目を迎えるとともに最終年とした。これまでに研究してきた「単元のゴールを明確にした授業づくり」、「自分の思いや考えを伝え合うこと」を意識した授業づくりをベースに、自分の学びの足跡を振り返ったり、他者とのやりとりを重ねたりすることを授業づくりを進め、学びの再構築をしている児童の姿を見ることができた。

しかしながら、「主体的な学習に取り組む態度」にA評価をつけられる児童が増えたとはまだまだ言い切れない。国語科だけでなく、他教科や特別活動においても自ら学ぶとする力をさらに高めたいと考えている。よって、研究主題は据え置くこととした。

一方、具体的な研究内容については、副題に記載した通り、国語科「書くこと」に絞り、「書くこと」の5つの指導事項や「書きたい」思いを膨らませることを通して、主体的に学ぶとする児童を育成することに重点を置いた。昨年度、国語科「読むこと」に重点を置いて研究を進めた学びを生かしつつ、領域を変更することで、教員の学びも深まることも期待したい。また、滋賀県教育委員会からいただいた指定「学びに向かう力推進事業」においても、国語科の「書くこと」の研究を十分に生かすことができると考えている。

3 研究仮説

「国語科（書くこと）」を窓口とし、書くことの5つの指導事項を充実させ、書きたい思いを大切にしたい指導の工夫等の授業改善のサイクルを継続的に取り組めば、自ら学び、学び合う児童が育つであろう。

4 研究方法

①研究教科は「国語科」とし、研究授業は学年部1本とする。

②授業づくりの視点を以下の4点とする。

1. 書くことの5つの指導事項の充実

(①題材の設定、情報の収集、内容の検討②題材の検討③考えの形成、記述
④推敲⑤共有)

2. 児童が「書きたい」と思うことができる指導の工夫やそれを支える基礎的な力

3. ICTを効果的に活用した授業実践

4. 城陽小学校区の保育園、幼稚園との「期待する子ども像」とのつながりとひろがり

③事前の指導案検討会や事前研究会などを研究推進委員と学年部で行う。(OJT 研修とも連携を図る)

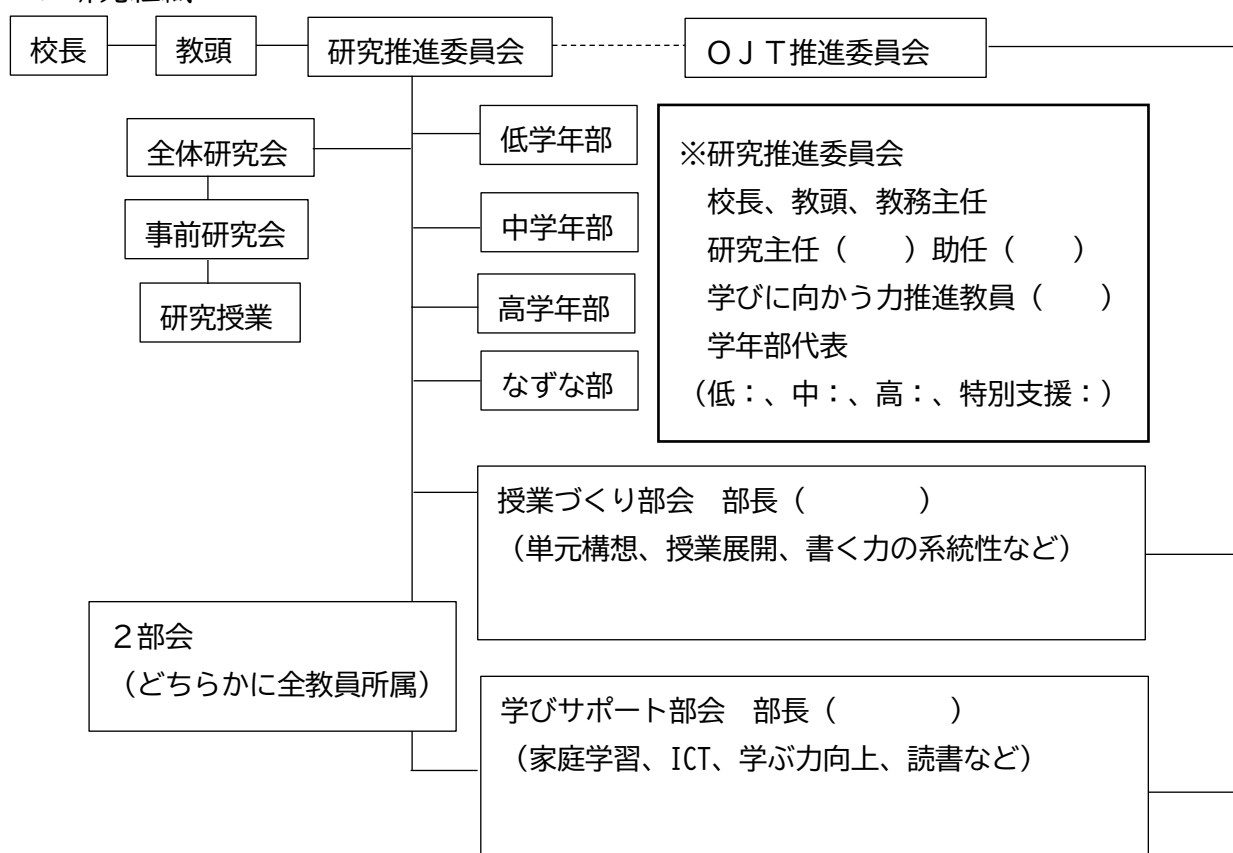
④研究の視点(授業研究会で討議する柱)を次の2点に定める。

1. 「書く力」を高めるための効果的な指導の在り方。
2. 育成したい資質・能力がついたかどうか。また、それに関わる学習評価の在り方。

⑤児童が「書くことが楽しい」と思えるような全校での取組

今年度は、全校でテーマを決めて、毎月一回チャレンジタイムを活用した川柳作りに取り組む。学級1名の川柳を校内の掲示板に掲示する。

4 研究組織



5 研究計画(令和7年度)

4月	研究推進委員会(推進計画の検討)	全体研究会
5月		
6月	研究授業 学ぶ力向上訪問(6月25日)	
7月		
8月	全体研究会(講師講話 授業づくり)	
9月	研究授業	
10月	研究授業	

11月	
12月	
1月	研究授業
2月	全体研究会(研究のまとめ)
3月	

6 指導案様式

第○学年国語科学習指導案

日 時：令和○年○月○日（○）○校時

学 級：第○学年○組○名

場 所：○年○組教室

授業者：○○ ○○

1 単元名（題材名）

2 単元（題材）の目標

3 単元について

（1）児童(生徒)の実態

（2）教材について

（3）指導について

- ・具体的な学習のゴール等も示せるとよい

（4）城陽学区の保育園、幼稚園との「架け橋期のカリキュラム」とのつながり

【期待する子ども像】

聞き合おう 考えよう やってみよう～お互いを認め合い、つながり合える子ども～

【重点とする「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」】

言葉による伝え合い 自立心

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

5 指導と評価の計画（全○時間）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点・ICTの活用	評価規準・評価方法
一	1			
	2			
二				

6 本時の目標（本時：○／○時間目）

7 本時の評価規準

8 本時の展開

	主な学習活動等	指導上の留意点(・) ICTの活用(☆) 評価規準(□)

9 授業参観の視点

(1)

(2)

参考資料

城陽メソッド(本校が大切にしてきたもの)

A 学びに向かう瞬間(教職員の人権感覚を生かして)

- ① 名前をていねいに扱う。
 - ・呼び捨てにしない。・名前を丁寧に呼ぶ。・名前を丁寧に書く。
- ② 話をていねいに聴く。
 - ・途中で口を挟まない。・リボイスしない。・体を話し手に向ける。・視線を合わせる。
- ③ 確実に話を聴く。
 - ・目を合わせて。しゃがんで。
- ④ ていねいに話す。
 - 正しい日本語。上品な日本語。
- ⑤ 座って話す。
 - ・視線を合わせて。同じ高さで。
- ⑥ つぶやきをひろう。
 - ・つぶやきと発言の違い。また、おしゃべりとの違い。
- ⑦ ペア・4人グループで学習する。

B 学びが成立する授業(子どもにとって魅力のある授業づくりの基盤)

- ① 授業に安定感がある。
 - ・子どもがストレスを感じない授業展開。・いつもと変わらない授業。
 - ・いつもと変わらない先生。・いつもと変わらないテンポ。
- ② つぶやきや自発的な発言が多い。
 - ・つぶやきや自発的な発言の裏には、「みんなの力になりたい。」という心理がある。「黙っていてもよい」という選択肢がある中で自発的に発言している意味を尊重する。
- ③ ちょっと難しい課題(ジャンプの課題)がある。
 - ・子どもの立場で考えてみて、楽しそう、好奇心がわく、興味が続くなど。子どもの学ばう力をぐんと伸ばす機会を教師が用意する。
- ④ わかったうれしさ・できたうれしさが残る。
 - ・授業終末の「ふり返し」を大切にする。・児童の学びを支えるコメントを返す。

C 教師の授業力

- ① 授業を公開する。授業を参観する。
 - ・参観するときには、絶対に子どもに話しかけない。・子どもの表情を見る。
 - ・子どもの反応に注目する。「聴く」「話す」「書く」「考える」
 - ・気になる子ども(グループ)を決めて「学びの事実」を記録し、教師の学びへ。
- ② 個人の研究テーマを決めて取り組む。